

# 週 報

1995年2月26日 降誕節第9主日

巻15 48号

1994年度教会主題

「十字架のキリストを証する」

聖句 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。  
から、自分の体で神の栄光を現しなさい。

コリントの信徒への手紙一 6章20節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

さったのです。」という言葉が最も心に残る。キリスト教は当然ながら偶像礼拝を拒否する。コリント教会で、異教の偶像神に捧げられた「肉」を食べて良いか悪いかの問題になった。信仰深い人は偶像は神でないから食べて一向に構わないと福音の自由を謳歌した。パウロはこの立場の正当性をはっきり認めている。パウロにとって福音は律法からの解放であったから誰よりも自由を理解していた。しかし、パウロは信仰がまだ確立できず、偶像に捧げられた「肉」を食べることによって信仰がぐらつく人のいることも知っていた。そこでパウロは「肉」を食べることは全く自由であるけれども、「その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです」「兄弟をつまずかせないために、私は今後決して肉を口にしません」と宣言している。信仰による自由を深く知りながら、あえてそれを捨てる自由こそキリストの十字架から学んだ生き方であった。パウロは十字架のキリストのことを思えば、何でもでき、そしてそれが喜びであったに違いない。

## 一 集 会 状 況 一

	男	女	計
主 日 礼 拜2/19	32	59	91
教会学校 子供2/19	10	13	23
大人2/19	9	11	20
成人拜2/19	1	3	4
聖 書 研 究 会2/21	1	12	13
入 門 講 座2/23	3	9	12

## 一 牧 師 室 か ら 一

コリントの信徒への手紙一を説教し終えた。言葉と思いを尽くして語るパウロに感嘆し、多くを学ぶことができた。私は「その兄弟のためにもキリストが死んでくだ